

平成 27 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	専修大学	職名	非常勤講師	助成金額	35 万円
氏名	小川 都	印	メール アドレス		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
外国人留学生のための日本語教育の一研究 — 「一般日本事情」の教材作りのための学習内容に関する調査—					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>1980 年代の「留学生 10 万人計画」に始まる留学生の急増から、1990 年代日本のバブル経済の崩壊による日本経済や先進技術への憧れの衰退、そして、2000 年代日本のアニメや音楽などサブカルチャーへの関心などによって、アジア各国特に所謂中国の富裕層の留学目的に変化が見られました。すなわち、時代と共に留学生像も変わりつつあるため、今日の留学生の実態、そして、彼らの学習への要望などを把握し、「一般日本事情」の教材や教授方法を再考案する必要があります。本研究では、実用的な「一般日本事情」の教材や教授方法を考案するため、留学生の学習生活の現状や学習内容に関する要望に合わせ、彼らが必要とする「一般日本事情」の学習内容について調査を行い、また、日本語教育に関しては、海外にいながら日本語学習を行っている学習者も多数存在しているため、日本国内に限定せず海外の日本語学習者が必要とする「一般日本事情」の学習内容についても調査を行いました。</p> <p>① 2015 年 5 月から 12 月まで、日本国内の大学で勉強している現役の留学生 45 名に対して、アンケート調査を行いました。調査内容は大きく分けて、留学生の日本語学習の背景や目標などを把握するフェイスシートの部分と「一般日本事情」で取り上げて欲しい学習内容への聞き取りの部分の 2 つです。その結果、留学生が既存の教科書や教室活動について、物足りなさを感じていることが分かりました。彼らは、自ら日々の生活の中で持った問題意識をテーマに取り上げることやその物事に自分の「なぜ」という問題意識を掘り起こして、それについて深く考えさせてくれるような教材や教室活動を求めていることが分かりました。</p> <p>② 2015 年 9 月から 2016 年 3 月まで、社会人となった先輩留学生 6 人にインタビュー調査を行いました。時代と共に留学生像も変わりつつですが、現役の留学生との学習背景や学習目標が変わっても、先輩留学生達の貴重な学習経験や長い留学生活を経験したからこそできるアドバイスや、経験者の立場での提言をヒヤリングしました。</p> <p>③ 2016 年 2 月 28 日から 3 月 8 日までの 10 日間、海外の日本語学習者にアンケートやインタビュー調査を行いました。中国北京師範大学の尹景旺准教授の協力を得て日本語学習者 53 人について調査を行いました。その結果、日本語学習者がこれまで使用した日本語の教材には「一般日本事情」に関する専門教材が少なく、日本に関する情報収集は主にインターネットに頼っていると分かりました。情報量が多いため、情報を選択する情報リテラシーの不足が露呈しています。</p> <p>④ 予定していた文献研究、および学術研究会などでの意見交換や情報収集は、現在も進行中です。</p> <p>以上の 3 つの調査から、日本国内・外の日本語学習者が「一般日本事情」に関して、以下の共通点が見えてきました。まず、彼らに必要な「一般日本事情」に関する専門教材やその教材を生かせる教室活動が必要です。また、これまでの日本の地理や歴史、社会生活などを記述するような内容の教材よりも日本人社会の特徴や現実問題、およびそれに関連する理由背景など、生の情報（音声や画像）を取り入れた E-ラーニング教材が求められています。さらに、その教材を生かし、実施できる教室活動を通して、彼らが持っている情意的な側面（学習動機）、行動的な側面（学習行動）、そして社会的な側面（学習状況）における自律的学習能力を引き出すことが大切だと思われます。今回の調査結果は、日本国内の留学生だけでなく、海外の日本語学習者のための「一般日本事情」の教材作りや具体的な教授方法の考案に大いに貢献できると思われます。今後も引き続き調査や学術研究会などで意見交換し、最終的に教材作りに繋げて行きたいと考えています。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		